

# 早稲田政治学会 ニュース・レター

Waseda Political Science Association 第3号 2000年12月

## 「早稲田政治学会」2年目を迎えて

早稲田政治学会代表幹事 山本武彦

昨年、内田満先生や大学院政治学研究科委員長（当時）伊東孝之先生をはじめとする方々のお骨折りによって立ち上がった早稲田政治学会は、本年5月26日に開催された第1回研究会をもって本格的に活動を開始することとなった。午後1時から夜まで、各専門分野に分かれて開かれた研究報告会には早稲田大学政治学研究科出身の多くの会員や政治学科教員、大学院政治学研究科学生諸君など、多くの会員たちの出席を得ることができ、実に活潑な議論が戦わされたことは、産声をあげたばかりの当学会の急成長を予感させるものがある。

一口に政治学といっても、個別専門分野が多岐にわたることはいうまでもない。このように政治学が細分化した背景には、とくに20世紀に入って政治社会の複合化と政治思想の多元化、さらには技術文明の爛熟化が急速に進んだという事情がある。このような変化を敏感に感じとりながら、早稲田政治学は開学以来の伝統である進取の精神を血肉化してきたと信じたい。私は昨年1年間、在外研究の機会を与えられ、アメリカに滞在したが、その間にアメリカ政治学会(APSA)とアメリカ国際政治学会(ISA)に参加し、とくに後者では研究報告を行った。学会会員数の膨大さもさることながら、パネルと報告者の数の多さには驚きを禁じ得なかった。しかも、日本の学会

とは違って、会員である限り、自由にパネルを組め、報告したい人が自由に発表できる機会が保障されている点にも新鮮さを感じた。もちろん、APSAでもISAでも、目玉のプログラムが設定されており、APSAでは国際政治学における新現実主義学派の巨頭と目されてきた Kenneth N. Waltz が記念報告を行い、会場に入りきれないほどの聴衆が集まって、報告終了後、聴衆との間で激論を戦わせる光景を目の当たりにして、アメリカ政治学会の活力の凄さのほどを肌身で感じた次第である。

このような活力が学問的に高度な論争を呼び起こし、次なる理論の構築を可能にする源泉になっているように、私には思えない。ただ、学問的な新たな地平を切り開くといった創造的な契機のほかに、研究成果を正当化するあまりの牽強付会的な報告が少なからず見られたのも、もうひとつ気になったことであった。その自己主張の激しさは、研究者生命をまっとうせんがための生きる知恵から出るものなのかもしれない。しかし、アメリカの学会に漲るあの迫力と活力が、日本の学会に見られないのは、私ひとりだけの感想であろうか。私たちも、アメリカ流の自己主張一点張りとはひと味違った、日本ならではの独自の政治学体系を確立すべきときに立ち至っているのではなからうか。21世紀の到来を目

前にして、そんな思いを強くしながら帰国したが、輸入学問の域をいまだ脱し切れないうちの日本の政治学研究に活路を切り開くためのせめてもの一石を、早稲田政治学会が投ずることができるよう、願わずにはおれない。

#### 第1回研究会をふりかえって

企画担当 吉野 孝

去る2000年5月26日に、記念すべき早稲田政治学会の第1回研究会・総会が開催されました。最初の研究会ということで手探りで始めましたが、会員各位から多大なご協力をいただき、研究会・総会は盛会のうちに幕を閉じることができました。

4つの分科会と1つの合同分科会の報告テーマは、「『たてわり行政の研究』政策ネットワーク分析を手がかりにして」、「現代リベラリズムにおけるconstitutional democracy radical democracyとの対比において」、「軍縮管理と輸出管理の連繫構造」、「憲法制定権力と立憲主義最近のフランスの場合」、「大山郁夫と日本国憲法」、「国民意識におけるデモクラシー 55年体制とシステム・サポート」など知的関心をそそるもので、充実した報告と活発な議論が行われました。ちなみに参加者数は以下のとおりです。参加者総数は54名。のべ参加者総数は68名。内訳は、「行政学・地方自治」分科会0名、「政治思想」分科会46名、「国際政治・国際行政学」分科会26名、「公法・日本政治史・日本政治思想史」合同分科会0名、「政治学」分科会36名。分科会平均33.3名。(司会者・報告者・討論者は、参加者数に含まれています。)

今後より多くの会員の方々に参加していただくために、いくつかの検討課題が残さ

れています。第1に、分科会時間(1時間15分)が短すぎるとい声がありました。第2に、会場の選び方に工夫が必要です。さらに、時間と会場とも関係しますが、1回の研究会でいくつの分科会を設けるのかも大きな問題です。これらの課題を1つずつ解決し、早稲田政治学会がより充実したものになることを願ってやみません。

なお研究会・総会後の懇親会では、参加者全員が「早稲田の杜の学徒」に戻り、旧交をあたためたことを付け加えておきます。

#### 事務局便り

【第1回「早稲田政治学会総会」議事録】  
日時：2000年5月26日(金) 17時30分～17時50分  
場所：政治経済学部 第1会議室

#### 議題

- (1) 代表幹事挨拶 伊東孝之
- (2) 2000年度研究会企画担当挨拶 吉野 孝
- (3) 2001年度研究会企画担当挨拶 田中愛治
- (4) 1999年度会計報告 飯島昇藏

会費収入	208,000円
寄付金	2,786円
懇親会会費残額	19,000円
合計収入	229,786円

(2000年3月30日現在)

以上の会計報告は、梅森直之、川岸令和監事の監査を経たうえで、承認された。

- (5) 役員追加・交代の件  
新幹事に山本武彦、堀 真清、千葉 眞、

辻 隆夫を任命し、また監事の梅森直之に代わって仲内英三を任命することが承認された。

【2000年度第2回「早稲田政治学会幹事会」議事録】

日時：2000年11月16日（木）19時～20時30分

場所：政治経済学部名誉教授室

出席者：飯島昇藏；谷藤悦史；千葉 眞；堀 真清；山本武彦（以上幹事）佐藤正志；谷澤正嗣（以上事務局）

議題

- (1) 総会の議事録を確認した。
  - (2) 幹事の互選により代表幹事に山本武彦幹事を選出した。また事務局長として佐藤正志会員を選任した。
  - (3) ニュース・レター第3号を2000年12月中旬に発行することを決定した。
  - (4) 2001年度の活動計画について意見交換を行なった。
  - (5) 1名の新入会員を承認した。
- 牛丸 聡（早稲田大学）

【会員の就職】

2000年度からあらたに大学・短大で専任教員の職に就かれた会員から、事務局で把握している方をご紹介します。

赤坂 一念 島根県立大学  
大川 正彦 東京外国語大学助教授  
葛西 弘隆 津田塾大学専任講師  
木下 郁夫 愛知県立大学専任講師  
小林 真里 静岡文化芸術大学専任講師  
田中 智彦 東京医科歯科大学助教授  
三浦頭一郎 白鷗大学専任講師  
安岡 正晴 神戸大学専任講師

【会員の出版】

2000年度（奥付け2000年1月1日以降）の単行書出版から、献本・申告等によって事務局が把握できたものをご紹介します。

< 著書 >

内田 満『内田満政治学論集 全3巻』（早稲田大学出版部）  
内田 満『可能事の芸術と現実の間で 私と早稲田と政治学』（三嶺書房）  
岡田憲治『権利としてのデモクラシー 甦るロバート・ダール』（勁草書房）  
片岡寛光『責任の思想』（早稲田大学出版部）  
金田耕一『現代福祉国家と自由 ポスト・リベラリズムの展望』（新評論）  
岸本広司『バーク政治思想の展開』（御茶の水書房）  
木部尚志『ルターの政治思想 その生成と構造』（早稲田大学出版部）  
斎藤純一『公共性』（岩波書店）  
澤 大洋ほか『若き日本と世界』（東海大学出版会）  
Shinoda, Hideaki. Re-examining Sovereignty: From Classical Theory to the Global Age. Macmillan.  
田中愛治ほか『政治過程論』（有斐閣）  
千葉 眞『デモクラシー』（岩波書店）  
中金 聡『政治の生理学 - 必要悪のアートと論理』（勁草書房）  
西 修『日本国憲法はこうして生まれた』（中央公論社）  
原 彬久『戦後史のなかの日本社会党 その理想主義とは何であったのか』（中央公論社）  
平野健一郎『国際文化論』（東京大学出版会）

平野健一郎『POD近代日本とアジア/文化の交流と摩擦』(東京大学出版会)  
眞柄秀子・井戸正伸『比較政治学』(放送大学教育振興会)  
渡辺重範『ドイツ近代選挙制度史 制度史よりみたドイツ近代憲法史の一断面』(成文堂)  
渡辺幹雄『ロールズ正義論の行方 その全体系の批判的考察 増補新装版』(春秋社)

< 訳書 >

栄田卓弘ほか(エリ・ケドゥーリー著)『ナショナリズム』(学文社)  
押村高ほか(J. - M. ・クワコウ著)『政治的正当性とは何か 法、道徳、責任に関する考察』(藤原書店)  
古賀敬太・木部尚志ほか(ロバート・P・エリクセン著)『第三帝国と宗教 ヒトラーを支持した神学者たち』(風行社)  
斎藤純一・山岡龍一・大川正彦(R・ローティ著)『偶然性・アイロニー・連帯 リベラル・ユートピアの可能性』(岩波書店)  
仲内英三・土井美德(ユルゲン・コッカ著)『社会史とは何か その方法と軌跡』(日本経済評論社)  
堀 真清(ハロルド・J・ラスキ著)『ファシズムを超えて』(早稲田大学出版部)

【会費納入について】

会費は、同封してある振り込み用紙にて、2001年度分を、郵便局を通して納入下さい。口座番号と会費は以下の通りです。

振込先(加入者名) 口座番号  
早稲田政治学会 00140-8-164345

年会費

現職の教員、研究員、助手 2000円  
退職者、院生、ポストドクター 1000円

年会費につきましては、学会の円滑な運営のために、早い時期に納入いただければ幸いです。なお2000年度以前の会費を未納のかたは、この機会に合わせて納入していただけますよう、お願いいたします。

【事務局からのお願い】

次号以降も、就職、スカラシップ(フェローシップ)の獲得、単行本の出版など、会員の活動紹介を続けて参りたいと思いますので、事務局までご申告下さい。

【訃報】

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

小笠原弘親会員 大阪市立大学法学部教授  
ヨーロッパ政治思想史

福田 三郎会員 元早稲田大学政治経済学部教授  
西洋政治史

2000年12月

発行：早稲田政治学会  
代表幹事 山本武彦  
編集 谷藤悦史

〒169 8050

東京都新宿区西早稲田 6 1  
早稲田大学大学院政治学研究科事務所気付  
早稲田政治学会事務局

TEL 03 3208 8534

FAX 03 3208 8567

ホームページ・アドレス

[www.waseda.ac.jp/gspolit/wpsa/index.html](http://www.waseda.ac.jp/gspolit/wpsa/index.html)